地域活性化に向けた取組について

2019年5月

美里町を取り巻く"機会"、"課題"と住民ニーズ

◆美里町の機会

寄居スマート IC の整備による広域利便性の向上

平成31年3月、寄居スマートIC下り線が先行開通し、早期の全面開通に向け取り組んでいます。IC整備により、本町への広域交通の利便性の向上が期待できます。IC利用交通量は2,300台/日となることが推計されており、地域活性化施設の整備にあたっては、交通量の増加を活かし、ICからもアクセスしやすい施設配置やIC利用者が利用したくなる機能整備が求められます。





新たな産業団地の形成による産業の発展

寄居スマート IC 開通により高まる立地条件を活かし、新たな産業団地(寄居スマート IC 美里産業団地)が形成されることから、本町の産業の発展が期待できます。

この機会を活かし、産業団地への立ち寄り者の利用等を見越した施設整備が求められます。

所在	寄居スマート IC から	
F)11 工	約 0.5km	
面積	約 14.1 ヘクタール	
引渡し		
時期	令和元年6月(予定)	
新規就	約 200 々 (マウ)	
業者	約 300 名 (予定)	



◆美里町の特性と課題

「心身ともに美しく暮らせるまちづくり」に向けた楽しみ・生きがいづくりの必要性

本町の最上位計画である総合振興計画においては「**心身ともに美しく暮らせるまちづくり**」を基本理念に掲げ、住民一人ひとりが本町での暮らしに誇りを持ち、美里町だからこそ住みたいと思える幸福な暮らしのあるまちを目指しています。

そうした中、人々の価値観・暮らし方はより多様になっています。物質的・金銭的な豊かさだけでなく、**人とのつながりや社会貢献、生きがいなど心の豊かさが重視される時代**となっており、高齢化が進む社会(本町も含め)においては特に重要な要素となっています。

このような社会にあっては、高齢者をはじめとした**町民がいかに主体的に活動し、楽しみ・生きがいを持って暮らすことができるか**、そのための取組の重要性が高まっている状況にあります。

基幹産業である農業(農畜産物)の活性化に向けた取組みの必要性

美里町は、町の9割以上を農業振興地域に指定しており、農業を基幹産業としています。近年は、農業就業者の高齢化や耕作放棄地の増加などの問題を抱えております。

現在、農村・田舎の地の利を活かし、農産物を活用した6次産業化(生産・加工・販売)や健康食への取組みを検討しています。

地域活性化施設の整備にあたっては、こうした取組みとの連携が求められます。

また、専業農家の大規模化が進む一方で小規模な兼業農家が多くを占めており、農家所得の伸び悩みも大きな課題となっています。このような中、小規模な農家も安定して農畜産物を供給できる、生活に密着した場づくり・仕組みづくりが求められます。





自然資源・歴史資源の連携強化

美里町は多くの美しい自然資源に恵まれています。約40ha という広大な植栽を誇るブルーベリー農園や水殿 瓦窯跡等の歴史的文化財が残る点も特徴となっています。しかし、こうした自然資源・歴史資源が点在し、情報が分散している状況にあることから、自然資源・歴史資源を有機的に結び付ける場づくりが求められます。





◆住民ニーズ

平成 26 年度に実施したワークショップでは、拠点施設の方向性として以下の 5 点があげられています。

- ◆美里町ならではの体験や町の文化を学ぶことができる 「まちを体感する」場
- ◆安心・安全で新鮮な食材が味わえる(手に入る) 「味覚を楽しむ」場
- ◆町内外の人や多世代が集まる「**交流する」場**
- ◆気軽に立ち寄れる、町の機能を一か所で利用できる 「暮らしの拠点にする」場
- ◆町を巡るきっかけを得られる、町の魅力が分かる 「まちを知る」場



地域活性化施設の基本方針

◆想定される主な施設利用者(ターゲット)

1周辺住民による日常利用

施設の周辺住民については、日常的な買い物の場として 利用するなど、定期的な利用が見込めるため、本施設整備に おいても、ターゲットとして、周辺住民の利用を見込みます。

圏域	日常利用による 年間利用者数
2.5km 圏	約 80,000 人
2.5~5km 圏	約 188, 000 人

②ゴルフ場利用者

本町周辺にはゴルフ場が多く、役場から概ね 5km 圏内のゴルフ場は 7 施設、年間利用者の合計は約 40 万人の状況にあり、寄居スマート IC 開通に伴うゴルフ場利用者の立ち寄りが期待されます。

ゴルフ場利用による年間利用者数 約 10,000 人

3 産業団地従業者等

寄居スマート IC 開通に伴い、「寄居スマート IC 美里産業団地」が形成されることから、その関係人口の立ち寄りが期待できます。

利用者	産業団地従業者等 による年間利用者数
産業団地 従業者	約 5, 500 人
産業団地 立ち寄り者	約 18,000 人

④寄居スマートIC 利用者

寄居スマート IC 開通に伴い、IC の利用者の本施設への立ち寄りが期待されます。

寄居スマート IC 利用者 による年間利用者数
41,000~82,500 人

◆整備コンセプト

以上の課題・ニーズ・ターゲットを踏まえ、本町で地域活性化施設の整備を進める上でのコンセプト(整備コンセプト)を以下のとおり定めます。

の機会 町

- ◆寄居スマート IC の整備による広域利便性の向上
- ◆新たな産業団地の形成による産業の発展

特性と課題

- ◆「心身ともに美しく暮らせるまちづくり」に向けた楽しみ・生きがいづくりの必要性
- ◆基幹産業である農業(農畜産物)の活性化に向けた取組みの必要性
- ◆自然資源・歴史資源の連携強化

地域ニーズ

- ◆「まちを体感する」場
- ◆「味覚を楽しむ」場
- ◆「交流する」場
- ◆「暮らしの拠点にする」場
- ◆「まちを知る」場

ターゲット

- ◆周辺住民による日常利用
- ◆ゴルフ場利用者
- ◆産業団地従業者等
- ◆寄居スマート IC 利用者

「地域活性化施設の整備コンセプト」 町民や来訪者の拠り所 町とともに成長する拠点づくり



 \bigotimes



「美×里」とは施設及び施設を核としたまちづくりを展開するにあたってのサービスなどをイメージしたものです。

基幹産業である農業(農畜産物)や自然資源、歴史資源等の「里」の資源を最大限活かすとともに、「美」という付加価値を加えることにより、本施設ならではのサービス展開を目指します。

【地域活性化施設の整備コンセプト】

町民や来訪者の拠り所 町とともに成長する拠点づくり

"町民や来訪者の拠り所"

- ○町民の**日々の生活の"拠り所"**として、地域 住民が日常生活の中で集い、やすらぎを感 じる地域活性化施設とします。
- ○**町の情報や資源の"拠り所"**として、来訪者が町を知り、体験するきっかけとなる施設とします。
- ○地域住民が施設に関連する取組みへの関与を促進し、取組みを通じて生きがいを感じることができる"生きがいづくりの拠り所"となること、さらには生きがいづくりを通じた"健康づくりの拠り所"となることを目指します。





町の情報の "拠り所" "拠り所" となる施設







資源の 出典:川場田園プラザド

"拠り所"

"生きがいづくり・健康づくりの拠り所"のイメージ(例)

小規模農家

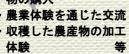


安全・安心な農畜産物 の供給

・農産物の加工・健康食 の提供 ※イメージ

地域活性化施設 |

・地元の作り手の顔が見 える安全・安心な農産 物の購入





町民•利用者

交流活動や農業・加工体験を通じ生きがい・健康づくりへ寄与

"町とともに成長する拠点づくり"

- ○美里町ではまちの魅力創造に向け、健康 食や新たな観光資源の創出などに取り組 んでいます。そうした取組みと連携した 情報発信の拠点となることで、町全体の 発展のための施設とします。
- ○本施設開業後も、社会のニーズが変わっていくことが想定されます。変化するニーズに対応した機能・サービスを提供し続ける施設とします。



"町とともに 成長する" 施設



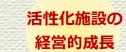


"拠り所"として成長するためのシナリオ

- ■地元住民や産業団地従事者、通過交通者などに集まってもらう
- ⇒地元住民を中心として多くの人々の日常利用の場として立ち寄ってもらい、地域の拠点としてリピートの習慣(仕組み)を作る。
- ■地元の野菜、商品を販売
- ⇒地元の作り手の顔が見える商品・サービスを集める。

施設の安定経営 地産地消の仕組みづくり

- ■スタッフや商品を育てて、販売力をつける
- ⇒町内事業者と連携し、新たな特産品の開発、サービスの向上 に努める。
- ■ギフトコーナー等、付加価値のある商品を増やす
- ⇒付加価値のあるギフト・仕入れ商品を増やす。
- ■町内の観光施設・資源との連携を図る
- ⇒活性化施設を拠点として、町内を回遊するしかけなど、町内 の資源を最大限活かす仕組みを作る。



地域全体の 発展・成長

地域活性化施設への導入機能(ハード)及びまちづくり展開(ソフト)

地域ニーズの ソフト展開

案内所

等

活性化施設への導入機能

地域ニーズ 知る 導入機能 · 加工体験 • 飲食施設 • 広場 ・観光 • 農産物

等

直売所

等

・・道の駅としての必須機能

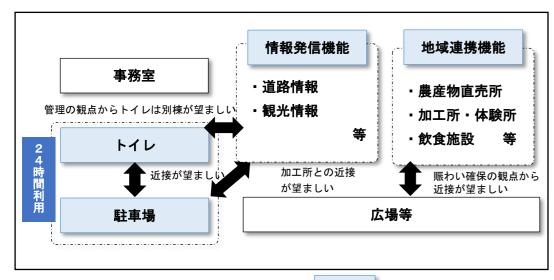
• 広場

■導入機能のイメージ

加工所

等

スペース



活性化施設-町内連携によるまちづくり展開

(1)施設を核とした回遊性向上戦略



- ・ヒアリング等による地域資源の洗い出し
- ・新たな資源創出(パワースポット等)の取組み

(3) ブランド創造・特産品開発戦略



・施設運営候補事業者・町内事業者へのヒアリング (開発の方向性や可能性)

〔5〕町内ストックの有効活用戦略

遊休農地を活用した農業体験 空き家を活用した移住体験





(2) 商品確保戦略

地産地消、活性化 施設の集客力向上に 資する商品確保







・町内事業者(農家、ブルーベリー農園経営者、古 代豚白石農場、オーストリッチファーム等) への ヒアリング

(4) 事業者との連携によるイベントプ ログラム

活性化施設内での イベントの開催



・町内事業者(商工会、農家、ブルーベリー農園経 営者、古代豚白石農場、オーストリッチファーム 等) へのヒアリング

(6) 民間連携による拠点形成戦略

活性化施設周辺への企業立地促進



・民間企業ヒアリング(温浴施設、コン ビニ、スーパー等)

(7) プロモーション戦略

タウン誌やメディアとのタイアップ マスコットの活用 ふるさと納税制度活用

